エコアクション２１

２０２２年　環境活動レポート

（対象期間：２０２２年７月～２０２３年６月）

発行日：２０２３年　９月　２１日

株式会社　プリント電子研究所

目次

項

１．組織の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２．実施体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３．環境方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

４．環境目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

５．環境目標の実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

６．環境活動計画、取り組み結果とその評価、次年度の取組内容　・・７、８

７．実績結果の評価・考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

８．環境関連法規への違反、訴訟の有無　・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

９．代表者による全体評価と見直し結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

１．組織の概要

１．組織

名称　：　株式会社プリント電子研究所
代表者：　代表取締役　矢浪興造
本社所在地：　神奈川県川崎市市の坪１７７－４
事業内容：　プリント配線板のパターン設計、CAD 設計、フォト作画
プリント配線基板等の製造、フレキシブル、テフロン等、特殊基板
フレックスリジット、多層フレキシブルの製造
超大型基板、超長尺基板の製造
金属板等のエッチング加工
プリント回路基板の加工（部品実装）
その他
事業年度：７月～６月

２．事業の規模

従業員数１４名
売上高　２０２百万円（２０２２年度　５５期）

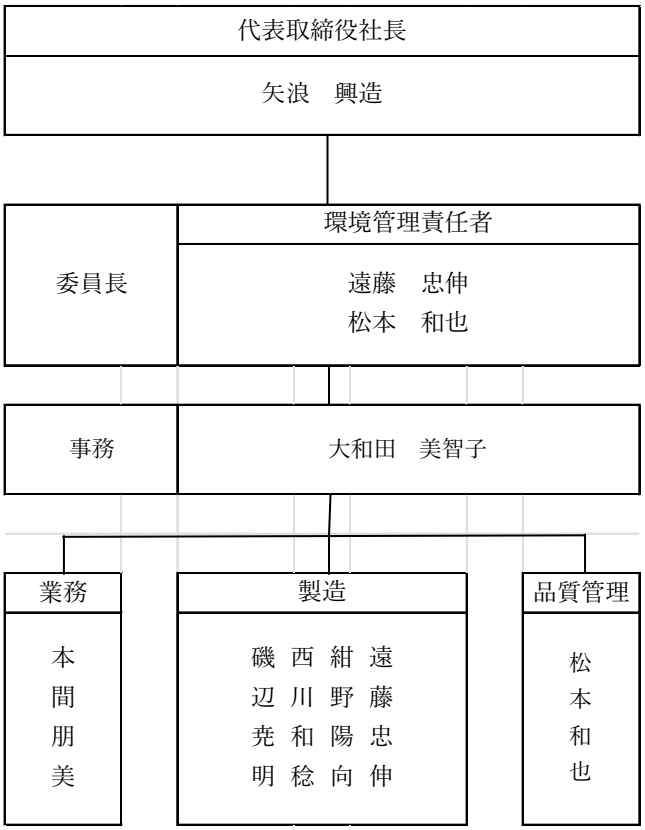
３．対象範囲

事業所及び所在地：　広野工場　福島県双葉郡広野町上北迫字岩沢１－１２

４．環境管理責任者氏名及び連絡先

責任者氏名：　遠藤　忠伸
連絡先　　：　TEL　０２４０－２７－２６４１

２．実施体制



役割・責任・権限表

	担当者名	役割・責任・権限
代表者	矢浪社長	・環境方針の策定 ・環境管理責任者の任命 ・資源（人員、設備、費用等）の準備 ・代表者による全体の評価と見直し
環境管理責任者	遠藤忠伸 松本和也	・環境経営システムを構築、運用、維持し、その状況を代表者に報告 ・外部からの苦情等の受付け ・環境活動レポートの作成
事務	大和田美智子	・環境関連文書及び記録の作成、管理等 ・環境活動計画の実施状況確認
メンバー	本間友美 西川和稔 磯辺亮明 紺野陽向	・環境目標及び環境活動計画の運用管理 ・工場内の環境に関する問題点の是正と予防処置の実施
全従業員	全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性の理解 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加

３．環境方針

環境方針

＜基本理念＞

（株）プリント電子研究所は、創業以来の環境先進企業として「地球環境にやさしい企業」を基本理念とし、地球環境の保全と事業活動の調和を図りつつ、「省資源・省エネは子孫へ贈る最大の贈り物」をスローガンに、子々孫々に豊かな地球を残すことに全力を尽くす。

＜基本方針＞

我社はプリント配線基板のパターン設計、CAD 設計、プリント基板等の製造技術を伝統としております。この伝統を生かして、フレックスリジット、多層フレキシブルの製造、超大型基板、超長尺基板の製造、金属板等のエッチング加工等、最先端の技術・製品を提供し続けることです。

信頼される製品づくり、安心の納期対応を第一に従業員一同、気持ちを一つにして「社会の発展、民生の向上、世界の安定」に貢献する。

１、　我社の事業活動は常に環境影響を認識し、環境汚染の予防を推進すると共に、環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進する。

２、　次の事項を環境改善重要事項とし、継続的な改善を行います。

（１）　二酸化炭素排出量の削減
（２）　廃棄物排出量の削減
（３）　水使用量の削減
（４）　化学物質使用量の削減
（５）　不良率の改善

３、　環境に配慮した製品の開発、及び販売を通じて、環境負荷の抑制に貢献する。

４、　環境関連法規を遵守し、環境関連物質の管理体制を強化、環境汚染の予防を図る。

５、　社内の緑化活動を推進し、地球環境の保全に寄与する。

６、　地球社会との強調、連携及び関連業者との情報交換により、環境保全に関するコミュニケーション活動を推進する。

７、　環境教育を通じてすべての構成員に環境方針を周知徹底するとともに、環境への意識向上に努めます。

制定日：２０１２年7月１日
改訂日：２０２０年8月１日
（株）プリント電子研究所　　代表取締役　矢浪　興造

４．環境目標

項	環境目標項目		単位	基準年度	年度目標		
				2015 年 （48 期）	2021 年 (54 期)	2022 年 (55 期)	2023 年 (56 期)
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO_2 /売上高(百万円)	700.5	2.0%削減 690.0	2.0%削減 690.0	2.0%削減 690.0
	電気使用量の削減		kWh /売上高(百万円)	1187.8	2.0%削減 1164.0	2.0%削減 1164.0	2.0%削減 1164.0
	ガソリン使用量の削減		L /売上高(百万円)	17.17	2.25%削減 16.78	2.50%削減 16.74	2.75%削減 16.70
2	廃棄物の削減	一般廃棄物	Kg /売上高(百万円)	3.54	1.75%削減 3.48	2.0%削減 3.47	2.25%削減 3.46
		産業廃棄物	Kg /売上高(百万円)	28.04	1.75%削減 27.55	2.0%削減 27.48	2.25%削減 27.41
3	水使用量の削減		m^3 /売上高(百万円)	14.12	2.0%削減 13.91	2.25%削減 13.80	2.5%削減 13.77
4	化学物質使用量の削減		Kg /売上高(百万円)	41.15	2.25%削減 40.23	2.50%削減 40.12	2.75%削減 40.02
5	不良率の改善		%	－	FPC1.2% PCB0.7%	FPC1.2% PCB0.7%	FPC1.2% PCB0.7%

注記：購入電力の CO_2 排出係数は、2015 年度東北電力の実排出係数（0.556kg-CO_2/kWh）を使用した。
各単位は原単位（各単位／売上高（百万円））で表し、48 期売上 266(百万円)を基に目標を算出した。

５．環境目標の実績

項	目標項目		単位	基準年度総量	基準年度原単位	目標	実績（総量）	実績（原単位）	達成率	評価
				2015 年（48 期）		2022 年（55 期）			（%）	
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO_2	186,293	700.3	2.0%削減 690.0	149524	740.2	93.2	△
	電気使用量の削減		kWh)	315,956	1187.8	2.0%削減 1164.0	262,741	1300.7	89.5	△
	ガソリン使用量の削減		L	4,566.60	17.17	2.5%削減 16.74	1,422.76	7.04	237.8	○
2	廃棄物の削減	一般廃棄物	Kg	942.7	3.54	2.0%削減 3.47	428.6	2.12	163.7	○
		産業廃棄物	Kg	7,457.80	28.04	2.0%削減 27.48	3,376.70	16.71	164.5	○
3	水使用量の削減		m^3	3,756	14.12	2.25%削減 13.8	1,781	8.81	156.6	○
4	化学物質使用量の削減 ※１		Kg	10,946.06	41.15	2.5%削減 40.12	2,809.56	13.9	288.6	○
5	不良率の改善		%	－	－	FPC1.2% PCB0.7% ※2	2.59% 1.69%	2.59% 1.69%	46.3 41.5	× ×

注記：購入電力の CO_2 排出係数は、2015 年度東北電力の実排出係数（0.556kg-CO_2/kWh）を使用した。
実績は、設備の稼働時間等の減少により、目標値と大きな差が出ることから、
原単位は「各単位／売上高（百万円）」で表し、48 期売上 266(百万円)、 55 期売上 202(百万円)
として算出し比較した。

※1　化学物質は PRTR 法該当物質とする。

※2　FPC フレキシブル基板　PCB　プリント基板（リジット基板）の略とする。

６．環境活動計画、取り組み結果とその評価、次年度の取組内容（1/2）

環境目標項目		取組内容	結果	評価	次年度の取り組み
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減	エアコン設定温度の取り決め	○	不要時のエアコンの電源 ON･OFF の意識はついてきた。定期的な清掃もおおむね実施できた。	エアコンの設定温度を夏季 26℃、冬季２２℃とする
		定時後のエアコン OFF	○		
		エアコンフィルタの定期的な清掃	○		
		電力使用量の大きい熱プレス機の使用前通知	○	事前通知により電気使用量の集中を減らすことはできている。	継続して行う
		指定設備の立ち上げ時間の設定	△	仕事が少ないときの電源 OFF が設備によって不十分だった。	〃
		設備の電源 ON/OFF 時間の記録管理	○	記録管理は出来ていた。	〃
		電力使用量の大きい設備（コンプレッサー、現像機の重点的な消灯活動	○	消灯活動はできていた。	〃
		残業時間の削減	△	多能工での協力体制で削減できたが、一部人員に偏りがあった。	継続して行う 均等化する
		不良製品・やり直し・手直しの削減	×	不具合、やり直し、手直し等による機械の稼働はやや多かった。	不具合等を減らす取り組みを行っていく
		生産性の改善	△	作業管理を行い、改善につながっているが、さらに改善が必要	継続して 行う
	ガソリンの削減	エコドライブ運転の推進	○	取り組み出来ていた。	〃
		出張は公共交通機関での利用推進	○	コロナ禍で、車での移動が減った	〃
廃棄物の削減	一般廃棄物	コピー紙消費の削減 ・社内資料を裏紙として使用 ・両面コピーの推進 ・一部書類のペーパーレス化	○	社内資料、両面コピーは徹底できていた。一部書類のペーパーレス化も実現できた。	〃
		不要な冊子を古紙回収へ	○	再利用できていた。	〃
		社内消耗品の一元管理、使用制限	○	消耗品の管理、購入量の削減は出来ていた。	〃
		消耗品購入料の削減			
		合紙･使用済み封筒･ダンボールのリサイクルゴミ活用	○	活用できていた	〃
		キムテックス使用枚数の管理・記録	○	管理・記録できていた。	〃
		詰め替え製品の推奨	○	アルコール、洗剤で実施できた。	〃
		不要郵便物の削減	○	弊社発送では削減意識は持てた。	〃
		不良製品・やり直し・手直しの削減	△	やり直し、不良を減らす必要あり	不具合を減らす取り組みを行う。
		生産性改善	△	廃棄物の改善には寄与しているがさらなる改善が必要	継続して行う

環境活動計画、取り組み結果とその評価、次年度の取組内容（2/2）

環境目標項目		取組内容	結果	評価	次年度の取り組み
廃棄物の削減	産業廃棄物	ビニール袋の再利用	○	取り組みが出来ていた。	継続して行う。
		PP バンド分別によるリサイクル			
		プラスチック使用製品の購入量削減	○	一回ごとの購入量を減らして一定の効果があったと考える。	〃
		不良製品・やり直し・手直しの削減	○	手直しで廃棄物削減に寄与した	”
		生産性改善	△	廃棄物の改善には寄与しているが、さらなる改善が必要。	改善に取り組む。
水使用量の削減		水使用設備のこまめな電源 OFF	○	設備不使用時の電源管理はおおむね出来ていた。	継続して行う
		水道使用後、閉栓の確認をする。	○	水の出しっ放しはなくなった。	〃
		設備メンテナンスの水使用方法の改善	○	貯め水を利用してメンテナンス出来ていた。	〃
		不良製品・やり直し・手直しの削減	△	不具合、やり直し、手直し等による機械の稼働はやや多かった。	不具合等を減らす取り組みを行っていく
		生産性の改善	△	水使用量の改善にも少しながらもつながった。	生産管理の工夫や不具合を減らす取り組みを行う
化学物質使用量の削減		ゴミや汚れが溜まらないように機械のメンテナンスをする	○	定期的に実施できていた。	継続して行う
		購入量の見直し	○	定期的に実施できていた。	〃
不良率の改善		定期清掃による、異物、汚れ防止	△	汚れは一定の効果はあったが、異物は横ばい。	清掃・管理の見直し
		ポカミスの防止、同じ不良を出さない。	×	品番間違い等の確認不足等により、不良が発生した。	同じ不良、ポカミスを出さない活動を行っていく
		クリーン室入退室の管理	△	重点品での管理は行っているが効果が薄い	入退室のやり方、頻度を見直し
		不具合発生時品質会議の実施、フィードバック	△	会議が迅速に開けない場合があった	フィードバックを速くして抑止する

７．実績結果と評価考察

＜電力使用量の削減＞

電力使用量の削減は目標未達成。ただし、前年度より改善傾向にあり達成率が９０％を超えた。コロナウイルスによる活動制限が解除され景気は回復傾向にあるが、電気業界の半導体不足が継続しており売り上げが伸びてきていない。目標を達成するためにはさらなる生産性の改善と不良率の改善に取り組んでいく必要がある。

＜ガソリン使用量の削減＞

ガソリン使用の削減は目標達成。コロナ後も本社と工場の行き来の回数を減らし web 会議を取り入れていることで効果が出ていると思う。

＜一般廃棄物の削減＞

一般廃棄物は目標達成。ペーパーレスの取り組みを始め、いくつかの書類の電子化は継続して取り組んでいる。また、会議などでの配布資料もできるだけ減らす取り組みも継続して行っている。

＜産業廃棄物の削減＞

産業廃棄物の削減は目標達成。手直しをすることで、廃棄物の削減に寄与しているが、不良率は目標を達成しておらず、良品率を上げることで同時に改善していくと思われる。

＜水使用量の削減＞

水使用量の削減は目標達成。無駄を減らす等の削減に対する活動は継続的に行っている。今後は不良による作り直しを減らすことで水使用量の削減に取り組んでいく。

＜化学物質使用料の削減＞

化学物質使用料の削減は目標達成。今後も引き続き削減に対する活動を継続的に取り組んでいく。

＜不良率の改善＞

不良率に関しては FPC、PCB ともに未達であった。前年度からの重点項目である異物、汚れについては定期清掃を行うことにより一定の効果はあったが、目標達成には至らなかった。

また、同じような不良を出さない事については品質改善活動で対応しているがポカミスを減らす等効果は見られるためこれからも継続して行っていく。

８．環境関連法規への違反、訴訟の有無

（１）主な環境関連法規制と遵守状況

法規制等の名称	要求事項	遵守状況
廃棄物処理法	収集運搬・処理業者との契約 産業廃棄物管理票（マニュフェスト）の交付 廃棄物置表示物設置	○
水質汚濁防止法	特定施設の届け出（公害防止管理者の選任と届け出） 排出基準の遵守 排水濃度の測定・監視	○
浄化槽法	設置の届け出（移転のため） 定期点検・清掃 水質検査	○
消防法	消化器の設置 警報機の点検実施 危険物の管理	○
PRTR 法	指定化学物質排出量の把握 情報の提供	○
毒物及び劇物取締法	盗難、漏洩の防止 事故、盗難時の届け出 容器、貯蔵場所に表示	○
グリーン購入法	環境物品等の調達推進 環境物品等への転換推進	○
フロン排出抑制法	環境物品等の調達推進 漏洩防止措置 適正場所への設置	○

（２）違反、訴訟の有無

環境関連法規の違反、及び訴訟等はありませんでした。

代表者による全体評価と見直し結果

株式会社 プリント電子研究所
代表取締役 矢浪興造

実施日 ： ２０２３年８月１日

見直し・変更の必要性

環境方針　　なし
環境目標　　なし
環境活動計画　　あり
環境経営システム　なし

代表者による総括 ： 代表者 矢浪興造

55 期は新型コロナウイルスの影響で後半に当社取引企業にて生産調整があり、発注が少なくなったことから後半の売上が鈍り、トータルの売上が前期に比べて下がってしまった。これにより、全体的な生産効率が下がってしまう傾向になった。

・電気の使用量については未達成であった。社内的な生産効率化が思ったよりも進まず、加えて受注量の低下により生産効率が下がってしまったと考えている。また、やり直し・手直しなどの不要な時間も多くあり、その分の無駄作業が発生し、電気を効率的に使うことができていなかったものと感じている。
・社用車を PHV に変えたことから、ガソリンの使用量は少なくなり、二酸化炭素の削減には寄与した。公共交通機関で行動できるところは公共交通機関での移動を推奨していきながら、ガソリンの使用量を低減できたと考えている。
・機械停止時間の調整やまとめ製作などを行なうことで水の使用量を削減できたものと考えている。
・不良率について、未達であった。本対応について、発生しやすい不良項目に加えて、突発的に発生する不良についての対応ができていなかった。また、新入社員が数名入社しており、今後の教育についても課題であると考えている。